

平成30(2018)年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 つるぎ町教育委員会 (都道府県:徳島県)

1. 当該地域の情報 (2019年 2月現在)

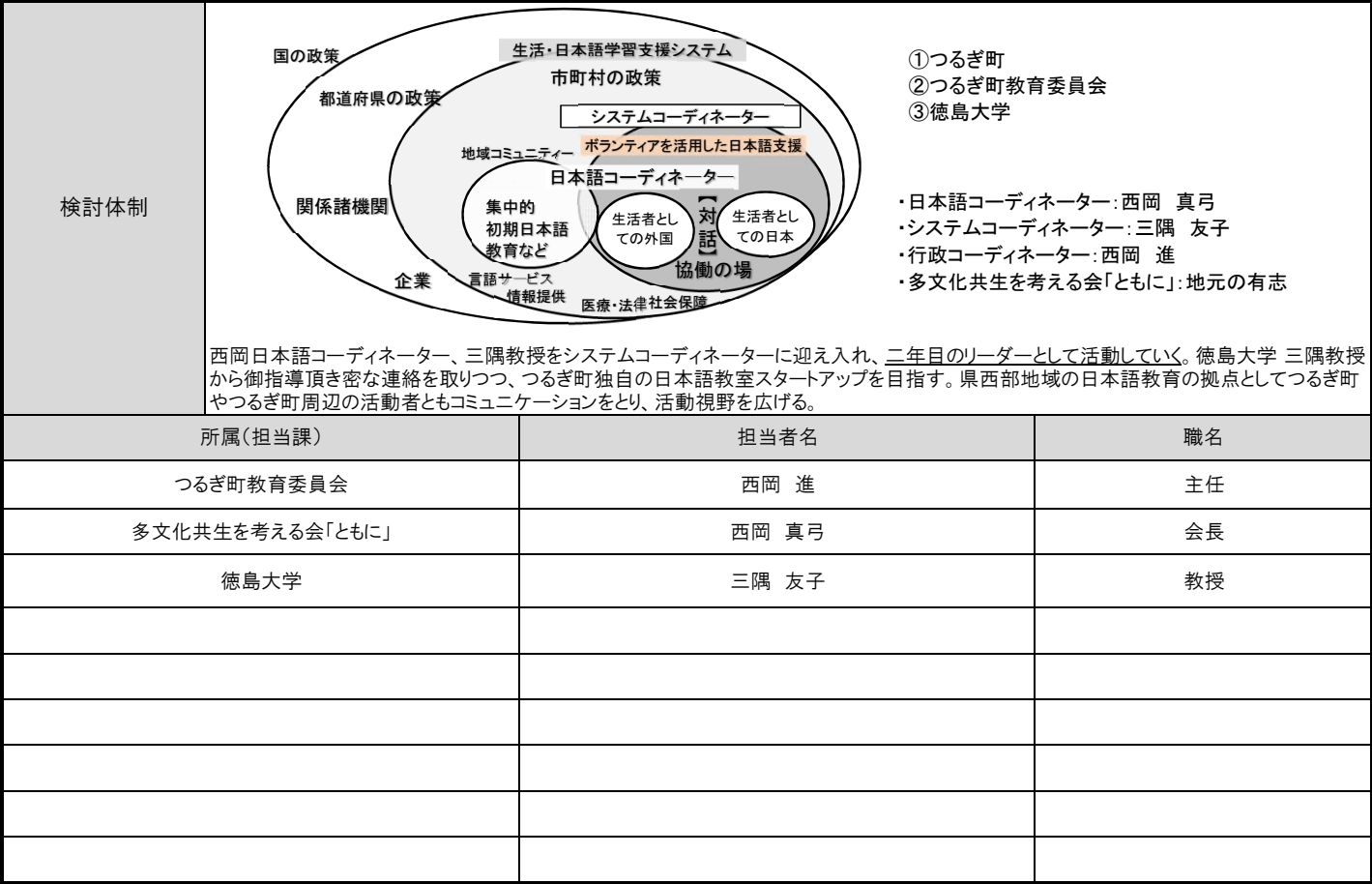
地域の課題	本町内には、夫婦のうちどちらかが在留外国人である家庭が数十件存在している。彼らの大半は婚姻により日本人の家庭に入り、多くは町内外の企業に勤めている。このような本町の在留外国人は、日本語はもちろん、生活の風習や子供の教育などで多くの疑問や悩みを持っていることが報告されている。家族の協力はもちろん、同じ境遇の友人や職場の同僚の協力で何とか解決できる問題もある。しかし、本人の努力だけでは容易に解決できない、子供の進学・就職・結婚や高齢家族の病气や死亡、相続などの大きな出来事や災害などの非常時への対応について、地域の人々のサポートと体制作りが必要である。
在住外国人数 外国人比率	0.35%(在住外国人32名/総人口8976名)
在留外国人の 状況	【主な国籍と人数】フィリピン14人 中国7人 アメリカ3人 韓国2人 タイ2人 その他4人 【在留資格】永住者19人 日本人の配偶者など4人 ALT3人 その他6人 【滞在年数・在留期間などの状況】 5年以上在住者が多く、日本人と家庭を持って住民となり、今後も本町に住み続ける意思がある方がほとんどである。
在住外国人の 日本語教育の現状	昨年度実施された社会福祉協議会の日本語教室ボランティアは今年度は活動が少なく、在住する外国人への周知も十分ではない。本事業1年目から外国人の相談などを行うボランティアグループとして多文化共生を考える会「ともに」が立ち上がった。今年度より「ともに」日本語教室』として文化体験や日本語学習を毎週実施している。町の広報誌「つるぎ」で、活動周知や参加の呼びかけを行っている。

2. 事業の内容

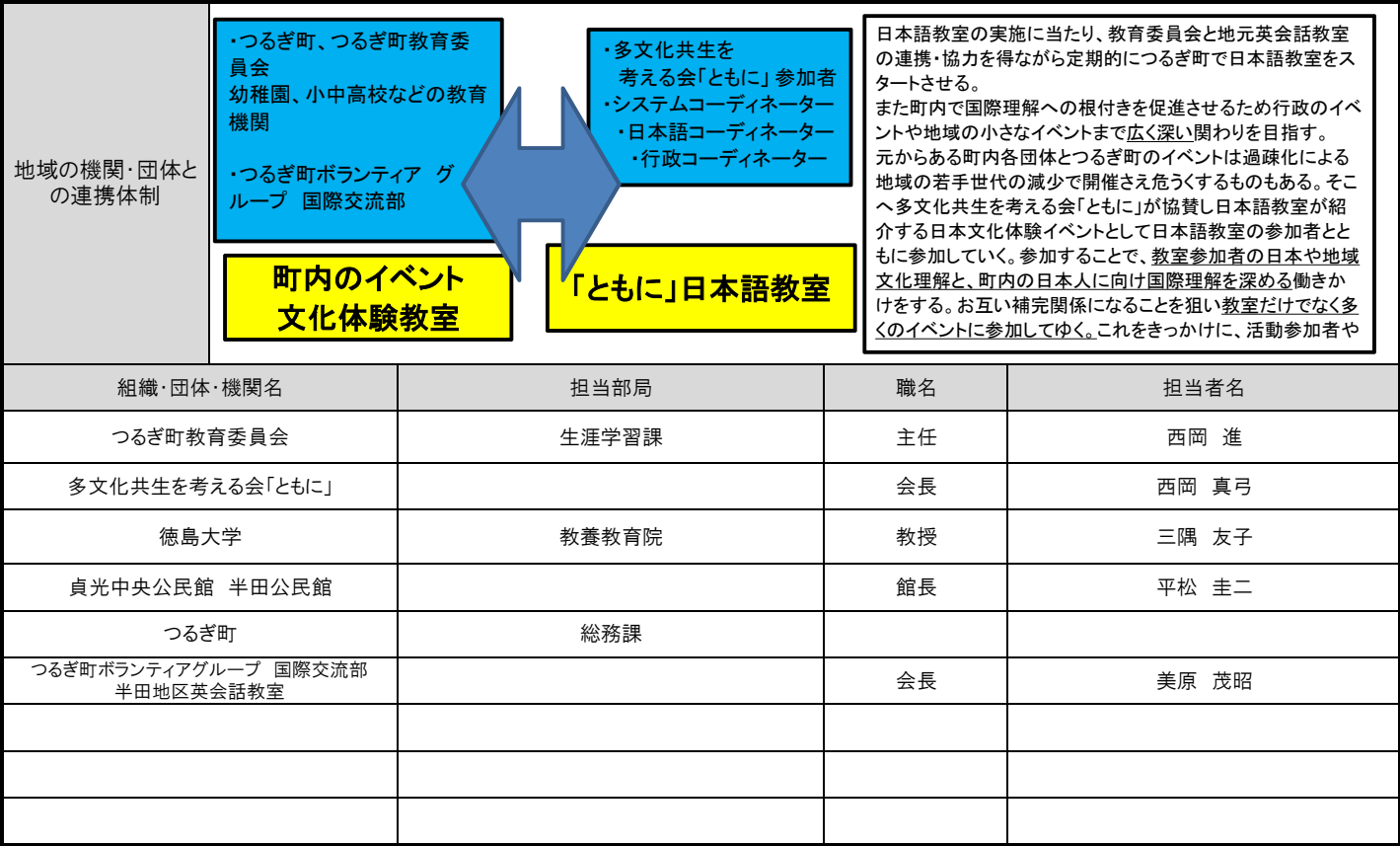
本プログラム取組年数	2年目			
事業の目的	1年目の活動で始動した多文化共生を考える会「ともに」を主体として引き続き在住外国人の生活、実情について直接聞きとりを行う。さらに本年度は活動を町のイベントと絡めて、より生活に根差し、外国人でも親しみがあり参加しやすいイベントでの活動を主とする。またイベントを通してコミュニケーションを増やし、日常生活の悩みや、言語が伝わらないことで感じる不便などを聞き出し、ともに楽しく学べる日本語教育環境作りを目指す。			
事業の概要	- 日本語教室の実施 まず、気軽に参加でき、「ともに」の日本人メンバーと外国人の参加者双方に学びのあるおしゃべりカフェを実施。 また、外国にルーツを持つ方がこの町でよりよく生きていくために困った時の相談窓口ともなるように活動していく。 日本語でのコミュニケーション意欲を高める楽しい「おしゃべりカフェ」から始め、ニーズに応じて日本語学習も少しずつ実施していく。 - 多文化共生を考える会「ともに」としての日本語教育技能の向上 サポートする「ともに」のメンバーは日本語教育について初めて取り組むので、日本語コーディネーターはアドバイザーの先生方等の勉強会を通して、地域住民と共に多文化共生について学ぶ。学んだことは、つるぎ町に持ち帰り「ともに」のメンバーにフィードバックする。 - 町内の日本人住民を対象に啓発活動を推進 町内の児童生徒に外国の言葉や文化を紹介したり、外国人とともに活動する場を提供することにより、多文化共生の考え方を体験的に学ぶ場を作る。 地域のイベント(お祭りなど)に参加を呼びかけ、地域文化を知る行動体験型の活動を行う。 - 県西部観光圏の日本語教室などとの連携作り 近隣市町村の日本語教室などに呼びかけて情報共有や連携を図る。			
事業の対象期間	2018年4月～2019年3月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	①核となる活動組織(多文化共生を考える会「ともに」)の設立。 ②在住外国人30名に向けてのアンケート調査。アンケートから好感触だった在住の外国の方へのイベント告知。 ③広報誌での活動周知。			
担当 コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	西岡 進	つるぎ町教育委員会	主任	行政コーディネーター
	西岡 真弓	-		日本語コーディネーター
	三隅 友子	徳島大学	教授	システムコーディネーター
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	西原 鈴子	NPO法人 日本語教育研究所		継続(2年目)
	内海 由美子	山形大学		継続(2年目)
	財部 仁子	神戸YMCA学院専門学校		継続(2年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
2018年 4月	新コーディネーターとの勉強会や調整	・コーディネーター同士の打ち合わせ	
2018年 5月	本プログラム3年目美波町との連携 キックオフ会議 今年度の活動計画について協議	・美波町コーディネーター同士の会議 ・キックオフ会議打ち合せ ・在住外国人の実態把握活動(外国人の家庭訪問など)	★「つるぎ町のニーズに合わせた日本語教室の開催の方法」助言(西原シニアアドバイザー・内海アドバイザー)
2018年 6月	「ともに」例会(七夕祭り準備)	・七夕祭り準備 ・コーディネーター同士の打ち合わせ	
2018年 7月	「ともに」例会(七夕祭り準備)・・・七夕祭りは豪雨のため中止 計画書作成	・コーディネーター同士の打ち合わせ ・計画書作成	★「地域と共に作る日本語教室」講演(財部アドバイザー)
2018年 8月	ニーズ調査及び広報 「ともに」例会 新ALTとの顔合わせ 学校訪問(児童の状況把握) 初めての日本語教室(「おしゃべりカフェ」)の実施	・コーディネーター同士の打ち合わせ ・地元キーパーソンとの打ち合わせ ・多文化共生を考える会「ともに」の周知活動(チラシの作成) ・廻り踊り保存会打ち合わせ会での説明 ・学習者の家庭訪問	
2018年 9月	廻り踊り参加 美波町との合同会議 日本語教育学会 四国支部 「ともに」例会(教材作成) 企業・学校訪問	・コーディネーター同士の打ち合わせ ・学会・合同会議に向けた資料作成 ・教材作成 ・企業学校訪問(チラシ配布) ・新しい学習者との連絡調整	★美波町との合同会議 「学習者の国籍や多様なニーズに合わせ活動すること」(西原シニアアドバイザー・内海アドバイザー)
2018年 10月	日本語教室 「ともに」例会(学習内容の検討)	・コーディネーター同士の打ち合わせ ・日本語教室の開催 ・おしゃべりカフェの内容検討 ・オデオン座プロジェクト打ち合わせ ・日本文化体験活動の計画(10月～2月分)	
2018年 11月	日本語教室 「ともに」例会(オデオン座プロジェクト準備など)	・日本語教室の開催 ・周辺市町村国際交流協会との顔合わせ ・地元昔話など学習内容の検討 ・オデオン座プロジェクトの打ち合わせ	
2018年 12月	日本語教室 「ともに」例会(オデオン座プロジェクト準備など) つるぎ町2英会話教室との協同ウェルカムパーティー オデオン座プロジェクト(本プロジェクト参加者のホームステイ受け入れ)	・コーディネーター同士の打ち合わせ ・日本語教室の開催 ・ウェルカムパーティー準備 ・ホームステイ受け入れの打ち合わせ ・中学生のスピーチ練習 ・オデオン座プロジェクトの協力	
2019年 1月	日本語教室 「ともに」例会 真光寺訪問(今後の日本文化体験の場として)	・コーディネーター同士の打ち合わせ ・日本語教室の開催 ・来年度の計画について ・新しい学習者の掘り起こし ・来年度のオデオン座プロジェクトの内容検討	
2019年 2月	日本語教室 「ともに」例会 近隣国際交流協会との情報交換 徳島GGクラブ(善意通訳組織)の現地案内 年度末つるぎ町スタートアッププログラム年度末会議	・日本語教室の開催 ・年度末会議準備	★年度末会議(西原Sアドバイザー・内海アドバイザー) 日本語教室でさらに日本語学習を広げ深めるための具体的方法についての助言及び今後の展望
2019年 3月	(予定) 日本語教室 「ともに」例会 コーディネーター、日本語指導者、サポーターの合同学習会 来年度の街歩きコースの検討	・日本語教室の開催 ・日本語指導法学習会準備 ・街歩きで訪ねたい地元観光地の検討	

(2)立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称		「ともに」日本語教室(通称:おしゃべりカフェ)						
外国人参加者について		[国籍]中国2名、フィリピン3名、アメリカ3名 [属性]日本人の配偶者等が主な対象、アメリカ3名は小中学校の外国語指導助手			参加者数 (内 外国人数)		受講者7名 支援者7名 (内 外国人数8名)	
開催時間数		総時間27時間			2時間×8回 3時間×2 2.5時間×2			
目標		同じ町に住む仲間として、また未来を担う子どもたちのために、日本語学習や文化体験を通して生活を支える。						
実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要		支援者数
1	2018/8/29 13:00～15:00	2	貞光公民館	2	オリエンテーション	・自己紹介(ゲームを交えて) ・教えてあなたの国 ・これから学びたいこと		日本語指導者1名 サポーター2名
2	2018/10/10 10:00～12:00	2	貞光公民館	1	オリエンテーション	・新しい学習者を迎えて 自己紹介(ゲームを交えて) ・教えてあなたの国 ・これから学びたいこと		日本語指導者1名 サポーター2名
3	2018/10/17 13:00～16:00	3	貞光公民館	1	日本語を使って 会話しよう	・つるぎ町、その周辺のイベント紹介 ・ひらがなと簡単な漢字の学習		日本語指導者1名 サポーター3名
4	2018/10/31 13:00～15:00	2	貞光公民館	1	体験を通じた 日本語学習	・体験活動を通じた日本語学習(ハーバリウム作成体験、お菓子ラッピング) ・漢字学習 ・ハロウィンパーティー		日本語指導者1名 サポーター2名
5	2018/11/7 13:00～15:00	2	貞光公民館	1	十六地蔵物語に ついての学習	・物語を通じた日本語学習(十六地蔵物語について) ・折り鶴の折り方 ・数字の漢字学習		日本語指導者1名 サポーター2名
6	2018/11/14 13:00～15:00	2	貞光公民館	1	毛筆について	・毛筆の道具についての説明 ・毛筆体験(線、とめ・はね) ・自分の名前		日本語指導者1名 サポーター1名
7	2018/12/12 13:00～15:30	2.5	貞光公民館	1	年賀状の書き方	・12支の絵本を読む ・年賀状を書く ・フィリピンの言葉を教えてもらおう		日本語指導者1名 サポーター1名
8	2019/1/23 13:00～16:00	3	貞光公民館	1	文化交流 「フィリピンの お菓子作り」	・料理を通じた日本語学習(フィリピンのお菓子「マハブランカ」) 《学習者が講師になって》		日本語指導者1名 サポーター2名
9	2019/01/28 13:00～15:00	2	コーディネーター 自宅	1	新しい学習者への 体験教室	・自己紹介や日本での生活について聞き取り ・体験活動を通じた日本語学習(ハーバリウム作り体験)		日本語指導者1名
10	2019/01/30 13:00～15:00	2	貞光公民館	1	節分について	・節分の絵本を読む ・節分豆の試食		日本語指導者1名 サポーター1名
11	2019/02/04 13:00～15:30	2.5	半田 コミュニティ センター	1	学習者への インタビュー	・学習しての感想 ・自分や子供の将来についての夢		日本語指導者1名 サポーター1名
12	2019/02/25 13:00～15:00	2	半田 コミュニティ センター	1	ひな祭りについて	・ひな祭りについて ・漢字学習 ・会話練習		日本語指導者1名 サポーター1名

【主な活動】



11/7おしゃべりカフェ
折り鶴の折り方



11/14おしゃべりカフェ
書道体験



1/23学習者による料理講習
フィリピンのお菓子「マハブランカ」

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
多文化共生のまちづくり (『生活者としての外国人』 のための日本語教育)	2018年 10月～12月(全10回)	日本語教室での指導者がいないという課題を受けて、継続的な日本語指導体制を構築するために、コーディネーターに依頼し、日本語指導者を育成した。また、新規コーディネーターの育成及びサポーターたちへのフィードバックを行った。 【内容】(前期:全10回、1回2時間 火曜日) 第1回 オリエンテーション 第2回 コミュニケーションの諸相(言語・非言語) 第3回 身体的コミュニケーション(インプロヴィゼーション) 第4回 日本語を学ぶ・教える① 第5回 日本語を学ぶ・教える② 第6回 日本語を学ぶ・教える③ 第7回 文化庁「生活者としての外国人の為に日本語教育」事業に関して 第8回 多文化共生のまちづくりの活動 第9回 徳島県立近代美術館にて留学生と美術鑑賞 第10回 多文化共生のまちづくりの活動の企画発表
地元や近隣市町村での 体験型プログラム、地域のお 祭りへの参加、イベントの開 催	(年間通じて)	学習者とサポーターのコミュニケーション、また「ともに」おしゃべりカフェが平日昼開催の 為、他の学習者も参加できるようなイベントへの参加またイベントを開催する。 9月2日 つるぎ町各所で行われる盆踊り「廻り踊り」に外国語指導助手と参加。つる ぎ町特有の文化「廻り踊り」また地元住民との交流を楽しんだ。(3名参加) 11月28日 隣接する美馬市でつるぎ町の学習者と美馬市の学習者とのコサージュ作り ワークショップでの交流を行った。(4名参加) 12月1日 周辺市町村三好市で学習者と着付けワークショップで日本文化を体験し た。 (4名参加) 12月8日 周辺市町村三好市で今年から働いているミャンマーからの若者のウェルカ ム パーティーを開催した。協力開催として地元英会話教室2教室、また、 学習者の家族や外国語指導助手も招待して開催した。(24名参加) 2月10日 周辺市町村三好市にて学習者や新しい学習者候補とその家族とともに いちご狩り。(10名参加)
オデオン座国際プロジェクト	2018年 12月24, 25日	徳島大学 留学生グループ「とくしま異文化キャラバン隊」と協町高校の学生が国際交 流 するイベント「オデオン座国際プロジェクト」に協力。前日のホームステイ受け入れや当日 のイベントスタッフ及び当団体の活動周知やつるぎ町の中学生による英語スピーチなど を行った。
多文化共生イベントへの協力	平成30年9月8日 平成31年2月16日	県下の多文化共生団体や国際交流団体に協力して、多文化共生を考える会「ともに」の 周知につなげる。 平成30年9月8日 日本語教育学会2018年度支部活動(四国支部)における「ともに」の活動 報告。 平成31年2月16日 徳島GGクラブ(善意通訳組織)の開催する観光通訳研修の受け入れを行 った。

【主な活動】



9/2
地元伝統芸能行事
「捨子廻り踊り」にて輪に入り
踊るALT(外国語青年助手)



12/8
つるぎ町3公民館教室合同
ウェルカムパーティー



12/24
オデオン座プロジェクトにおける
本町中学生のスピーチ

5. 今年度事業全体について

進捗状況	1年目のアンケート回答者への参加の呼びかけから本年度定期的な活動をしている。 また、定期活動から、学習者の輪を広げる活動や多文化共生イベントへの協力や町内外への周知活動を行っている。
成果	2年目 平成30年10月より「日本語や日本の文化を学びたい」在住外国人に向けた日本語教室を毎週1回実施している。(学習者の都合で休みになることもある。)教室は、家庭で子を持つ母親世代の外国人のニーズに合わせ平日の日中に実施し、学習内容には子どもの教育に関することや、生活文化の体験なども多く取り入れている。これも体制調整に1年目から時間をかけた効果が出ている。またALT(外国語指導助手)に向けてのイベントも開催することで、母親達とALTの2つのニーズに充分に応えられている活動となっている。
地域の関係者との連携による効果	地域の祭りである「廻り踊り」の保存会との連携で、過疎化・高齢化により参加者が年々減少する「廻り踊り」に在住する外国人が参加することで、地域の一員としてまた、衰退する祭りへの協力者として認識が広がった。 また「公民館活動」では地元英会話教室2教室との交流会で、学習者の家族(旦那さんやお子さん)も参加があり広い世代交流が出来た。また英会話教室の参加者も「やさしい日本語」に初めて触れた人もおり、多文化共生の「気づき」に繋がった。 教育委員会とは外国人の子ども達の状況について情報交換を密にしている。
コーディネーターの主な活動	①ニーズの調査(19.5H) ②体制整備のための調整(192H) ③人材育成のための調整(58H)※「多文化共生のまちづくり」講座20Hを含む。 ④日本語教室開設及び運営のための調整(66H) ⑤教材作成に向けた調整(16.5H) ⑥その他(0H)
アドバイザーの主な助言	〔定期的な活動になるまでのアドバイス〕ニーズと学習者の希望に合った内容を進めるとよい。キーパーソンの外国人を軸に学習者の掘り起しを。しかし、無理強いをせず、つるぎ町らしい付き合いの方法を模索してほしい。活動していると、周囲の日本人から「何だ?」と思われるが恐れずにどんどん「おせっかい」をしていくように。 〔学習者が見つかり定期的な活動が出来てからのアドバイス〕日本語教室が定期的に始まり素晴らしい。学習者が教室の外でも日本語に触れる学習をする方法を工夫してほしい。街中の気になった漢字を探したり、辞書を使わせたり。また、日本語教室ではあるが、相手の国の文化を学ぶ活動がさらに広がるといい。学習者も「教えること」が学んだことの定着になる。さらに今後の展望として「町費が付けられるか」可能性を探り、自立した組織になるよう努力してほしい。ただ費用のことよりは日本語教室を出来る形で続けていくことが大切である。
今後の課題	・日本語教室について 日本語教室については、学習者が現在3名なので、在住外国人へのさらなる呼びかけを行う必要がある。また、日本語学習支援者についても同様である。 ・啓発活動について ①児童生徒への多文化共生への理解を進める機会を作らねばならない。 ②地域住民対象の多文化共生的なイベントを開催して啓発を促進したい。 ③広報活動をさらに進める。
今後の予定	・町内の他の分野の活動や、つるぎ町、徳島県西部市町村、県との連携し活動する。 ・本プログラム終了後は公民館教室として活動が続ける。 ・公民館活動では一定額の活動費が確保できるが年間の活動を考えると少額である。 ・活動によるが、学習者・メンバーの会費制も検討している。 ・様々なソフト事業補助金の中から【多文化共生を考える会「ともに」】に適したものをとるなど自助努力する。

本件担当 : つるぎ町教育委員会 生涯学習課